

No.69, 2016, Apr.,

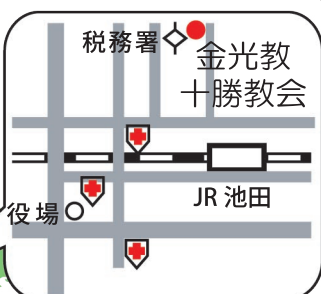
4 月・天地金乃神大祭号

TEL 015-572-2322
FAX 015-572-4213



いけだ

Facebook「金光教十勝教会」



金光教十勝教会
〒083-0001
池田町旭町 1-9

<http://city.hokkai.or.jp/~mtamaki/kyokai>

十勝教会 だより 69



facebook



HP(PC 専用)



平成 28 年元日の教会
設立 96 年目の教会です。今年の元日は雪もなくとても穏やかでしたね。

平成二十八年、今年もこの広前で春の御大祭、天地金乃神様の御大祭を迎えることができました。

平成二十八年 天地金乃神大祭 ならびに
初代教会長 玉置藤太真道清行大人九十年祭
二代教会長夫人 玉置スエノ清香姫二十五歳祭 をむかえて

目ということになります。

この九十六年間、一度も閉ざされることなく広前が開かれてきたことはまさに、「神量^{かんはか}らい」あつてのことであり、それは、天地金乃神様のためにご用を尽くされた歴代教会長先生、そのご教導に付き従われた信徒のみなさんはじめ先人たちのお働きに神様がお応えくださつてのことであると今さらに思われます。



その初代教会長・玉置藤太先生がお亡くなりなられたのが大正十五年（享年五十七歳）、今年でちょうど九十年を迎えます。十勝教会が設立されたのが大

正九年のことですから、初代先生がこのお広前でご用を仕えられたのはわずか六年ほどだったことになります。

もともと池田におられた初代先生が同郷の新谷カヨさんのお手引きで金光教に入信したのが大正二年。その後、当時札幌におられた（元）気仙沼教会長・渡辺丑五郎先生のご教導の下、近隣の信者さんたちと共に「講」（「神道信仰会」地方在住の信者の会）を組織して池田で布教をはじめ、渡辺先生がお亡くなりになった後、大正八年には渡辺先生のご遺志と信者仲間の勧めと後押しもあって金光教の教師を拜命し、翌年には教会の設立に至っています。

入信から七年ほどで金光教教

師となられ、教会を設立するま
でになったのですから、当時の
初代先生の信仰に対する情熱、
また、初代先生とともに、この
地に天地金乃神様の広前を作ら
ねばならないとご尽力をされた
当時の信者さん達の願いがどれ
ほどのものであったのかと今さ
らながらに思われます。



この冬は雪が少なく助かるな
と思いましたが...
お正月を過ぎれば雪景色

初代先生がお亡くなりになっ

た後も二代先生をはじめ先人た
ちの信心とご用に支えられ、十
勝の広前は今日まで閉ざされる
ことなく開かれてきました。

初代先生のお広前での御用は
六年という短い間でした。それ
は一世に近い教会の歴史の中で
は一瞬の輝きのように見えるか
もしれません。しかしそれは、
ロウソクに灯りをともしマツチ
の一瞬の炎が如く、初代先生た
ちのこの地に信心の灯り（あか）
をともし火口（ほくち）としてのお働きだったの
ではないかと思えます。ロウソ
クもランプもそれに火を灯す源
がなければ用をなさないの
です。

私たちは、初代先生はじめ教
会創設期にご尽力くだされたみ
なさんが灯り（あか）をともし、二代先

生はじめその蹟を継がれたみなさんが、その火を絶やすことなく守り広めてきた「信心の灯火」に照らされています。



天地の御都合とはいえ、冬の大変な北海道の布教当初は一体どうだったのでしょうか？

この度の御大祭では、天地金乃神様への御礼のお祭りに併せ、初代教会長玉置藤太先生の九十年祭、二代教会長夫人玉置スエノ姫の二十五年度の式年祭を仕えさせていただきます。

初代先生はじめ先人たちがと

もし伝え遺してくださった「信心の灯火」に照らされ支えられている私たちであり、広前であります。そしてその灯火を燃やす燃料は先人たちの遺してくれた「信徳」であり、その信徳は、天地金乃神様の願いに叶う氏子としての生き方をすすめ、天地金乃神様の広前としてのご用を尽くされた先人たちへ、神様がお授けくださったものだと思えます。

一世紀近くにあつて続いてきた信心の灯火を絶やさぬよう、そして、その灯火で次の世代を照らし続けていくためにも、今を生きる私たちひとりひとりが、天地金乃神様の願いに叶う氏子としてのご用を仕え、信徳を積み重ねていただきますように。



☆昨春秋の薫別講社の御大祭の写真です。陸別町薫別にある広前ですが、もともとは老朽化した大響地講社（足寄町）の広前を平成九年に遷座したものです。

そして、初代教会長玉置藤太先生は、この大響地講社の月例祭の最中にお亡くなりになられたのでした。

教会 日 誌

平成 28 年 1 月 1 日から 4 月 10 日まで

1 月 1 日 平成二十八年・元日祭。

1 月 3 日 士幌町、K 家、高橋家、感謝祭。

1 月 3 日 池田町、M 家、感謝祭。

1 月 4 日 帯広市、M 家、A 家、K 家、感謝祭。

1 月 5 日 薫別講社・年頭祭。

1 月 10 日 釧路市、O 家、五十日祭・合祀祭。

1 月 16 日 北見市、S 家、葬儀式。17 日まで。

1 月 21 日 網走教会、A 家葬儀式、副教会長祭員奉仕。

1 月 23 日 北見市、S 家、旬日祭。

1 月 29 日 札幌市、T 家、株式会社 I 社、株式会社 A 社、株式会社 B 社、合同感謝祭・交通安全祈願祭。

2 月 7 日 信徒会総会。

写 真 元日祭

今年はとても穏やかなお正月でした。年男（左上）を筆頭に参拝者代表の玉串を供え、おとそをいただきました（左下）。



写真 信徒会総会

総会行事では今年の信徒会の活動内容が確認された他、新たな総代と幹事の選任報告がなされました。

写真 信徒会総会

総会行事の後は、総代の乾杯の音頭で懇親会。お料理をいただきながら子供たちによるビンゴゲームを楽しみました。



2 月 13 日	余市町、I 家、感謝祭。
2 月 16 日	幕別町、K 家、感謝祭
3 月 5 日	北見市、S 家、五十日祭・合祀祭。
3 月 10 日	札幌市、K 家、式年祭。
3 月 12 日	新潟県、新津教会長葬儀式、副教会長 会葬参拝。
3 月 20 日	春季霊祭。
3 月 26 日	士幌町、T 家、二柱霊神式年祭。
3 月 27 日	道東地区教会連合会総会、北見教会。 副教会長、信徒会長、副会長出席。
3 月 29 日	帯広市、I 家、二柱霊神式年祭。
4 月 1 日	勧学祭。
4 月 5 日	薫別講社・天地金乃神大祭
4 月 9 日	帯広市、M 家、式年祭。



写真
春季霊祭（上3枚）
祭典の後はぼた餅のお直会。奥
城はまだ雪の中でした。
勧学祭（下2枚）
今年も進学、進級を迎えた子供
たちが玉串をお供えました。

十勝教会これからの主な祭典と行事

上 半 期 感 謝 祭	6 月 26 日 (日)
教会創立記念祭・布教功労者報徳祭	8 月 16 日 (火)
秋 季 霊 祭	9 月 22 日 (祝)
生神金光大神大祭	11 月 20 日 (日)
薫別講社・生神金光大神大祭	12 月 5 日 (月)
※大祭前大掃除・大祭打合せ	11 月 13 日 (日)
※境内清掃奉仕 6 月 4 日 (土)、7 月 2 日 (土)	

道東地区教会連合会交流会のお知らせ

☆去年まではパークゴルフ大会を行っていましたが、今年は趣向を変えて交流会を開催します！

詳細が決まりましたら改めてご案内を致しますのでみなさんご参加下さい。

月日 6 月 11 日 (土) 午後
場所 帯広市内
内容 工場見学など
懇親会 帯広教会

道東地区教会連合会研修会のお知らせ

☆昨年開催し好評だった「頭の体操的な」簡単で分かりやすい研修会です。こちららも詳細が決まりましたら改めてご案内をいたします。是非ご参加下さい。

月日 6 月 12 日 (日) お昼まで
場所 帯広教会
内容 「お礼」をしたこと
「お礼」をしたいこと
「お礼」をされたこと

道東地区・関係教会大祭

	春	秋
釧路	5 月 29 日 (日)	10 月 16 日 (日)
北見	7 月 3 日 (日)	11 月 3 日 (祝)
帯広	4 月 24 日 (日)	11 月 6 日 (日)
網走	5 月 22 日 (日)	10 月 23 日 (日)
滝上	6 月 5 日 (日)	10 月 30 日 (日)
夕張	4 月 29 日 (祝)	11 月 3 日 (祝)
函館	5 月 13 日 (金)	11 月 13 日 (日)

北見教会布教百年記念大祭
7 月 3 日 (日)

天地金乃神大祭 ならびに

初代教会長 玉置藤太真道清行大人九十年祭

二代教会長夫人 玉置スエノ清香姫二十五年祭

金光教十勝教会

天地金乃神大祭

先 祭員着席
次 拝 礼
次 神前拝詞奉唱
次 取次唱詞奉唱
次 祭主祭詞奏上
次 祭主玉串奉奠
次 天地書附奉体
次 教会長玉串奉奠
次 参拝者代表玉串奉奠
次 神徳賛詞奉唱
次 神人の栄光斉唱
次 拝 礼
次 祭員・霊前へ転座

霊 祭

次 拝 礼
次 霊前拝詞奉唱
次 祭主祭詞奏上
次 祭主玉串奉奠
次 教会家族・参拝者代表玉串奉奠
次 祖先賛詞奉唱
次 拝 礼
次 祭員退下

- 古備舞奉納「神まつる」
- 御神伝奉読・教会挨拶

♪ 神 人 の 栄 光 ♪

一、 天地は神のふところ
人はみな神のいと子
かぎりなき神徳のなかに
生かさるるわれ等うれしき

二、 人の世にとわの光を
いと子につきぬみかげを
誓わしし教祖の神に
救わるるわれ等うれしき

食 前 訓

食物はみな人の命のために
天地乃神のつくり
与え給うものぞ
何を食うにも飲むにも
ありがたく頂く心を忘れなよ

食 後 訓

体の丈夫を願え
体をつくれ
何事も体が元なり